

復活祭を迎える

主教 植田仁太郎

毎年移動する教会の祝日である復活祭、今年は3月23日です。言うまでもなく、教会とクリスチャンにとって一番大切な祝日です。もちろんイエス・キリストの誕生日であるクリスマスよりも大切な日です。

イエス・キリストの誕生と生涯ということだけでは、私たちの信じるキリスト教というものには生まれなかったでしょう。歴史の中に生まれ、生き、そして死んだイエス・キリストが「復活した」からこそ、この方が永遠に憶えられることになりました。

イエス・キリストの復活についての最初の記述は、十字架上で刑死したイエスが葬られた墓に、死後三日目に訪れた女性達に起った出来事を記した、あの物語ではありません。イエス・キリストの復活を、文書でレポートとした最初の人はパウロです。

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわちキリストが……死んだこと、葬られたこと、また聖書（旧約）に書いてあるとおり三日目に復活したこと」（コリントの信徒への手紙 15 章 3 節以下）とパウロは伝え、さらに何人もの人々に復活したキリストが現れ、ついには「月足らずで生まれたような私にもあらわれました」と証言しています。

復活とは、息をふきかえたのでもなく、幻視の結果でもありません。イエス・キリストが全く新しいいのちをもって、「生きて」いることを示しています。

その復活のキリストを信じ、従う私たちも、その全く新しいいのちにあずかることができる——その深い喜びが、復活祭の喜びです。